



座談会

第53回 青年経営者全国交流会in香川 香川開催に向けて!

【出席】「第53回 青年経営者全国交流会in香川」実行委員会

【司会】 広報・情報化委員会

実行委員長

西山 彰一郎氏

オートモールジャパン(株)／代表取締役
(青年部委員会 委員長・高松第4支部)

実行委員

小原 秀人氏

(株)コアライン／代表取締役社長
(青年部委員会 副委員長・中讃第1支部)

実行委員

三宅 輝征氏

三宅設備工業(株)／代表取締役専務
(青年部委員会 副委員長・中讃第2支部)

久保田 奈緒氏

haruchi／代表
(高松第1支部)

香川開催に向けての意気込み

司会 早速ですが、「第53回青年経営者全国交流会in香川」

に向けて、どんな交流会にしたいとか、どんなことを参加者の皆さんに持ち帰っていたいただきたいとか、いろいろと考えておられると思います。それらについて具体的にお聞かせください。

三宅 香川同友会の青年経営者が「青年経営者全国交流会(以下、青全交)」の開催を機会に、自社の経営理念や同友会理念をしっかりと理解し、それによってこれから先、次世代として香川を担っていく、よくしていけたらと考えています。

また私たちはもちろん、参加者の皆さんが「労使見解」を今以上に深められる場にしたとと考えています。

司会 ありがとうございます。西山さんはいかがですか。

西山 香川県には魅力のある企業や経営者がたくさんありますし、います。そういう人

たちにもっと同友会と関わってもらう機会を増やしたいと常々考えているので、今回の交流会がその一つのきっかけになればと願っています。

来年の「青全交」は香川の経営者の皆さんにとって、遠方に出かけなくても地元で学べるまたとない機会です。元氣な経営者がより元氣になり、新しいことにチャレンジするような情熱を持って各地に帰ってもらえる交流会にと強く思っています。

小原 私事ごとですが、昨年から自己変革を大事にしてみました。社員や会社を変えるにはまず自分自身が変わらなければいけないの考えからですが、その一つの機会が今回の「青全交」だと受け止めています。

県外に出なくても全国から皆さんが来てくれて、同じ場で学び合うわけですから、これ以上のことはありません。いろんな会員さんと触れ合えるまたとない機会の場をより

充実したものにしたいと思いませんし、私自身もいろんな体験をしたいと思っています。

司会 ありがとうございます。今回の交流会で参加した会員さんたちが、経営者としての自分自身や自社を見直すきっかけになればということですね。ところで実行委員会のメンバーは全部で何人おられるのでしょうか。

西山 青年部メンバー含めて現在29名です。

司会 ところで実行委員会でこれまでに(7月9日現在)決まった内容について聞かせてください。

西山 開催地スローガンの「守破離(しゅはり)」とサブスローガンの「未来を背負いし経営者よ讃岐の地で心に刻め」が決まりました。

小原 各支部から推薦してもらった人たちが集まって第1回目の実行委員会を開いたのですが、「青全交」に参加したことがある人とそうでない人たちがいるので、まず「青全

交」とはに始まり、こういう思いを抱いて交流会を開催したいと考えているんだという説明をしました。要するに皆で同じ思いを共有するための集まりが、第1回目の実行委員会です。

司会 ありがとうございます。三宅さん、これまでの取り組みの中で感じたことなどあればお願いします。

三宅 第1回の実行委員会では、いくつか意見が出てきました。中には私が思ってもいなかった意見などもあり、そういう考え方もあるんだと感じました。それらが混ざり合っている科学反応が起きればと期待しています。

スローガンとサブスローガンについて

司会 ありがとうございます。サブスローガンですが、却下されたものも含めて、どういうふうに選ばれたのか、なぜこのサブスローガンに決まったのかを教えてください

ますか。

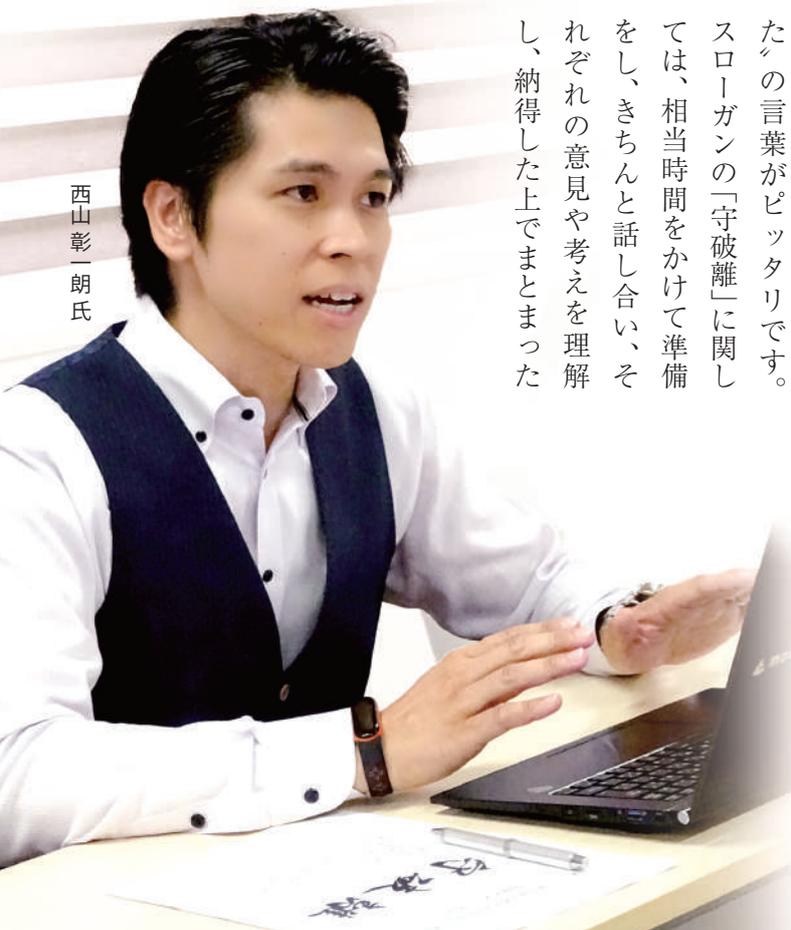
小原 新しい経営のリーダーズというサブスローガンがそもそもあって、集まったメンバーたちがスローガンの「守破離」に沿ったものをそれぞれ出し合いました。5人のメンバーだったのですが、5時間あまり話し合いましたが、なかなか出てこなくて頭を抱えた結果、絞り出した言葉を集めて出来たのが今のサブスローガンです。

西山 ほんとうに絞り出したの言葉がピッタリです。スローガンの「守破離」に関しては、相当時間をかけて準備をし、きちんと話し合い、それぞれの意見や考えを理解し、納得した上でまとまった

ものですが、サブスローガンに関しては何も決めていなかったもので、スローガンのテーマなどおかまいなく、これはどうだ、云々で、いろんな言葉が飛び出しました。

それでは收拾がつかない中で、もう少しスローガンの「守破離」に沿ったものや、開催地の香川県がきちんとわかるような、いわゆる香川県らしさが伝わるようなものをということになったわけです。

香川県らしさという点で



西山彰一朗氏

は、一番最初に出ていた「うどん」の言葉が改めて登場しましたが、選ばれませんでした。(笑)そういう紆余曲折の結果誕生したのが現在のサブスローガンです。意味合い的には「未来を背負いし」のところが次世代のリーダーをという思いを込めたものです。

それから「讃岐の地」は香川県のこと、「心に刻め」は、「守破離」の全てで、三つの味のどれ一つも欠くことができないことを理解し、それを心に刻んで各支部や各県の同友会に持ち帰ってもらいたいという強い思いを込めたものです。

司会 ほんとうに素晴らしい

スローガンとサブスローガンだと思えます。青年部ならはのものだと思います。

実行委員会の皆さんは、来年の開催に向けて、現在は準備期間中ですが、どんな交流会にしたいのか、まだざっくりとしていると思いますが、お聞かせください。

それから、スローガンが「守破離」ですが、それを核に皆さんのようなビジョンで臨まれているのか。一言でいうとどんな交流会にしたいのかですが、それについてもお願いします。

小原 どんな交流会にしたいのか

のかということですね。

2027年開催の香

川定時総会の予行演習を

とらえている方がいるかもしれませんが、我々としてはそうではなく、今回の「青全交in香川」をスタートにして香川県の経営者がよくなっているようなものになりたいと思っていますし、私自身もこの運動を通して成長したいと考えています。

三宅 私も今年開催予定の「青全交in宮崎」に参加して、大いに学んできたいと考えています。宮崎から何かを持ち帰り、香川で何ができるかをしっかり考えなければと思っていますし、皆で一つのところを目指していけるまたよい機会として受け止め、それを会員の皆さんに伝えていか

小原秀人氏

なければと

思っています。

西山 どんな「青全交」にした

いかというと、

本気で同友会活動と自

社経営に取り組んだら会社は

きちんと伸びていくと考えて

いるので、それを社員が喜んで

くれ、地域も喜んでくれ、

皆が喜んでくれる中で会社は

伸びていくことを、同友会活

動を通じて体験して欲しいと

思っています。

ただ会社の業績を伸ばすだ

けであれば、同友会活動を通

じなくてもできるかもしれま

ない





せんが、それでは社員や地域の喜びには繋がらないと受け止めています。

同友会活動、例えば今回の「青全交」の活動に本気で取り組むことで、自社や社員が良くなることを、自分だけでなく皆で共有することで思いを一つにする。「青全交」の香川での開催がそのバネになり、香川同友会や全国の同友会運動に少しでもよい影響を与えることができればと考えます。そんなきっかけにしたいですね。

会員に向けて何を発信？

司会 申し訳ないのですが、私自身「青全交」に参加したこ

とがないので、どんなメリツトがあるのか、自分自身がどう変わるのか、その辺りが不明瞭なのでややもすると他人事として受け止めかねません。おそらく私同様感じている会員さんも結構いるのではないかと思えます。そういう意味で、どのように発信していけば効果的なのか、具体的な案があればお聞かせください。

さい。

三宅 私にできることは直接話をすることです。「青全交」に参加して感じたことは同世代の経営者が、しっかりと同友会で学びながら、それを自社経営に結び付け、自分自身も社員と共に成長しているこ

と、「労使見解」で学んだ人間尊重の経営を実践していることです。

それを目の当たりにしたことで、それまで漫然と感じていた同友会運動が確かなものだったことを改めて気付き、同友会に対する認識が大きく変わりました。また、同友会は本当によい会だ」と実感するようになりました。学びを実践し行動すれば、会社も地域も変わるし、自分自身も変わるのではないか。そう思える刺激がありました。

おそらく参加した皆さんも私と同じような気持ちになるはずだと思います。そういう熱い思いを持ち帰ってもらえるような「青全交」にしたい。しなければならぬと考えています。

なのでとにかく参加して欲しいです。

小原 その通りなので、とにかく一回参加してと言いたいです。同友会に入って活動してみると、自社の経営課題が見えてくるはずだと思います。その課題をしっかりと見つめ直し、それを持って「青全交」に参加すれば、何かしらのヒントは得られると思います。

司会 課題が解決できると…
小原 はい。できます。やります。

西山 解決の場になるかどうかは本人次第だと思います。何か教えてくれるだろう、学べるだろうという曖昧



三宅輝征氏

な気持で参加しても結局課題の解決にはほど遠いものがあるし、面白くなかったりの結果が生じます。

ただ、「青全交」の場合は次世代を担う若い人が多い交流会なので、参加者の熱量が違います。自己変革を切望するなど、志の高い人たちが多数参加しています。そういう人たちと本気で話し合える場なので、自分自身が本気で解決したい課題や学びたい事柄を持ち込まないと、結局何も得ることはできません。

ですから、前段階でしっかりと自分自身と向き合い、課題を確認して参加して欲しいと思います。そうすればきっと期待以上のものを持ち帰ることができるはずですよ。また、逆に次は自分がもらったもの以上のものを返したいという気持ちになるのではないのでしょうか。それが「青全交」の醍醐味です。

三宅 「青全交 in 宮崎」では、オプショナルツアーが予定さ

れているので旅行と割り切つて参加してみるのもいいのではないかと思っています。

司会 それは確かに魅力があると思いますが、香川の場合はどうですか。

西山 はい。今はまだ案の段階ですが、予定には入っています。今後つくる予定にしていますから、どうぞ参加してください。

司会 楽しみです。例えば…

小原 うどんツアーですかね。(笑)

西山 私が勝手に思っていることですが、いつも全国大会に行く観光がメインのオプショナルツアーが多いのですが、その土地、現地で行かないような同友会の会員さんの2、3の会社の訪問ツアーがあれば、もっと学びが深められるような気がします。

司会 最後に伝えたいメッセージがあればお願いします。

西山 まずは、「青全交 in 宮崎」に参加していただきたい

と思います。遠方ですし、どういうものなのかわからないところがあるかも知れませんが、来年の香川開催にあたって、まずはみんなで宮崎にいきませんか。

小原 来年の香川での「青全交」のために、皆さんの力を借りたいと思っています。ぜひよろしくお願いします。

三宅 私も同じで、宮崎にぜひ行っていただき来年の「青全交」開催に向けて力を貸してほしいと思います。

司会 ありがとうございます。た。「青全交」は同友会活動の一つだとは思いますが、皆さん自社の経営はもちろん、仲間の輪を広げ、香川をよくしよう、さらに全国をよくしようという思いで取り

組まれていることがよくわかっただけでなく、想像以上のものがありました。皆さんの志の素晴らしさには驚かされました。

今回の宮崎の次は香川ですが、どこにも負けたくないという気持ちが強くなったような気がします。ですから、小さなことでも協力できることがあれば参加したいという思いが強くなりました。

本日の皆さんのお話が同友会の会員の皆さんに伝わることを願っています。



久保田奈緒氏